

令和4年度 事業報告

概 況

新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」）の拡大は、周南市シルバー人材センター（以下「当センター」）の業務に多大な影響を与えました。日常業務の中で、会員や当センター職員の感染は新たな働き方を模索するきっかけとなり、当センターが一丸となり乗り切った一年となりました。

県内においては、コロナの感染対策を講じながら、公益社団法人山口県シルバー人材センター連合会主催による「シルバーフェスティバル」が県内の全センター参加のもと開催され、当センターからも会員の作品出展販売や舞台出演など大いに盛り上がりました。

最重要課題である会員拡大については、全国シルバー人材センター事業協会の第2次会員100万人達成計画の目標値をコロナ以前の水準に戻すことが当面の目標となり「夫婦会員制度」や「報奨制度」、「シルバーフレンドリーショップ」事業を展開してまいりました。さらに、ハローワーク徳山との連携や、即日入会制度の導入、入会手続きの簡素化は、新規会員の獲得に繋がりました。

当センターの業績面においては、コロナ禍の影響を大きく受け減少しておりますものの、新たな発注者様のニーズに応えるため、積極的に取り組んでまいりました。そのなかには、連合会から他のセンターに好事例として紹介されたものもあります。

また、公共から受注している業務の一部が令和5年度より民間へと移行することが示されたことから、取引の減少に繋がらないように情報収集に努め関係機関へ働きかけてまいりました。

令和4年度が「第4次中期基本計画」（令和3年度～令和7年度）の2年目となりますことから、本計画の施策事業を評価・検証し、実績と課題を明確にすることで次年度に引き継いでまいります。

以下、令和4年度の主な事業の実施状況についてご報告申し上げます。

事業実施状況

1. 会員の確保

企業の定年の延長および再雇用制度が定着しつつあるなかで、新規入会会員の確保、拡大は厳しい状況です。

そのような中、退会会員を減らす取組みは重要となります。未就業会員が退会へと繋がることから、入会時に聞き取りをしている希望職種以外でもご案内できるものがないか、会員の声に耳を傾けました。

また、活動を自粛していた「女性の集い」や「いきいきレディースサロン」を再開し女性会員の拡大に努めました。

増加策としては、①入会手続きの簡素化②夫婦会員制度の周知③会員紹介報奨制度の活用④ハローワーク徳山との連携強化⑤就業会員不足になっている業種に特化したチラシを作成し入会説明会での啓発に取り組みました。

その結果、令和5年3月末の会員数は1,004人で、会員構成は男性598人、女性406人となり前年度比20人の減少でした。女性会員比率は約40%と、全国平均を大きく上回り、山口県内でもトップとなっています。

2. 就業機会の確保・拡大

就業に繋がるお仕事情報の定期的な更新、1人1仕事開拓、安全適正就業委員会による長期就業内容の見直し等により、未就業会員への就業機会の提供に努めました。

契約金額について、請負・委任の受託契約金額は370,552千円で、前年度比6,133千円の減額で1.7%の減、配分金支払額は301,401千円で、前年度比4,373千円の減額で1.5%の減となっております。

また、就業延人員は75,758人で、前年度比2,566人の減少、就業実人員は814人で、就業率は81%で1.7%の増、受注件数は6,986件で、前年度比464件の減少、6.6%の減となりました。

次に、派遣事業の契約金額は95,313千円で、前年度比9,572千円で10%の増、就業延人員は16,204人、前年度比1,855人で11.5%の増となりました。

したがって、請負・委任、派遣事業を併せた契約金額は465,865千円となり、前年度比3,439千円の増で、前年度比0.7%の増となりました。

3. 安全就業・健康管理の推進

組織をあげて安全意識の向上を図るための「安全推進大会」を、2年ぶりに開催することができました。

また、日常生活を含むあらゆる面において、安全意識を持つことを目的に、毎月1日を「安全の日」と定め幟旗を掲揚してまいりました。

令和4年度の事故発生件数は、傷害事故7件（前年度9件）、損害事故については6件（前年度6件）、前年度と比較すると発生件数は2件の減少となりました。

健康増進では、衛生管理者による健康相談や衛生委員会で協議した情報を、センター会報誌「いきがい」に掲載し会員の健康意識の向上に努めました。

4. 適正就業の推進

ワークシェアリングによる就業機会の公平化のため、安全適正就業委員会で、評価、検証し「適正就業ガイドライン」を遵守するように努めました。

センター事業の基盤となる地域班組織の機能強化を図るための地域班長・役員合同会議を一堂に会して2年ぶりに開催することができました。

5. 財政基盤の確立

センターの意義・役割・地域貢献等について理解を深めていただき、安定した自主財源の確保と共に事務効率の見直し、経費の削減をおこないました。

- ① 会費のコンビニエンスストアでの納入
- ② 部会、委員会の再編
- ③ 複数の会議の同一日開催

また、令和5年10月から導入される「インボイス制度」に対応すべく、事務費率の改正に向けた準備や、公共事業の官民連携による影響が最小限となるよう関係機関への働きかけをしてまいりました。

6. 会員活動と福利厚生の実

会員の入会特典として「シルバーフrendリーショップ」の協賛店を募集し協賛を頂きました。

また、コンピュータ・クラブや手芸部、俳句の会などのサークル活動が停滞

することのないように、コロナ禍の「新しい生活様式」に併せ感染防止策を講じながら、各サークル活動を支援しました。

KDDI 維新ホールで開催された公益社団法人山口県シルバー人材センター連合会設立25周年記念「シルバークフェスティバル」に参加し、当センター手芸部の出展販売や会員のステージ演技など、他センターとの交流も深まりました。

7. 組織の充実強化と効率的なセンター運営

当センターの事業を推進するための専門部会を開催し、諸課題について協議しました。新たに入会説明会用の動画を作成し、ホームページでも閲覧可能としました。また、コロナ禍の「新しい生活様式」によるテレワークに向けスマートフォンを活用など社会環境の変化に対応しました。2年目となるSMSによる情報発信はイベント直前の周知策として有効な手段となっており、今後も活用してまいります。